



木型で誘う^{いざな}菓都大津

2022年12月1日[木]~12月16日[金]

開催会場=立命館大学 びわこ・くさつキャンパス インフォメーション(キャピエ横)

開催時間=9:00~17:00(入場締切16:45)

休展日=土・日 ※12月11日(日)は学園祭のため開館

入場料=無料

主催:立命館大学 食マネジメント学部 鎌谷かおる研究室

共催:大津市歴史博物館

後援:立命館大学食マネジメント学部、立命館大学食総合研究センター
立命館大学BKCリサーチオフィス

【2023年1月6日~1月22日に大津市歴史博物館にて同一展示開催予定】

本展示は2022年度立命館大学グラスルーツ・イノベーション・プログラム(GRIP)の研究成果の一部です。

「大津の街には京都の如くなる菓子屋数家あり。（中略）日本の饅頭、京都を以て極品第一とす、大津の町の菓子屋これに次げば第二と称すとも苦しかるまじ。」



（意識：大津の町には、京都と同じように素晴らしい菓子屋が数家あります。日本の饅頭は、京都が1番の極上品だと言われていますが、大津の菓子屋の作るお菓子は、それに次ぐものであると言っても過言ではありません。）

これは、享保8年(1723)に膳所藩の藩士寒川辰清が編纂を開始した地誌『近江輿地志略』の中の一節です。今から300年前に記された書物を通じて、私たちは大津の菓子の評価の高さを知ることができます。

2022年に発足した「菓都大津」再興プロジェクトは、大津の菓子文化の実態を具体的に調査し、次の世代へと繋げていくことを目的に発足した産官学連携プロジェクトです。

今年度は、大津市内の菓子店への聞き取り調査や、地元で受け継がれる菓子作りについて調査を進めています。今回の展示は、その研究成果の第一弾として、調査させていただいた大津市内の菓子店や個人でご所蔵の多様な菓子木型をお借り、展示を通じて、来場の皆様を「菓都大津」の世界へ誘います。あわせて、今年度の研究活動内容のパネル展示も行います。

展示内容

プロジェクト概要
今年度の調査報告
堅田の菓子文化
など



パネル展示

映像展示

木型展示

体験コーナー

【交通アクセス】



立命館大学びわこ・くさつキャンパス 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

JR東海道本線「南草津駅」から近江鉄道バス「立命館大学行き」または立命館大学經由「松ヶ丘五丁目」行き・県立長寿社会福祉センター」行きに乗り換え約20分。「立命館大学前」で降車、検温所通過すぐ左側

※駐車場の数に限りがございますので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください

